

平成20年9月

生越智文 学位論文審査要旨

主 査 重 政 千 秋
副主査 井 藤 久 雄
同 豊 島 良 太

主論文

Influence of glucocorticoid on bone in 3-, 6-, and 12-month-old rats as determined by bone mass and histomorphometry

(3、6、12ヵ月齢ラットの骨に及ぼす糖質コルチコイドの影響—骨量測定法と骨形態計測法を用いた検討—)

(著者：生越智文、萩野浩、深田悟、谷島伸二、岡野徹、豊島良太)

平成20年 Modern Rheumatology 18巻掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、ヒトのステロイド性骨粗鬆症の病態解明を目的として、月齢の異なるラットに糖質コルチコイドを投与し、その骨に及ぼす影響を検討したものである。その結果、6ヵ月齢雌ラットに対するプレドニソロン20 mg/kg投与によって生じた骨の変化がヒトのステロイド性骨粗鬆症に最も類似することが明らかとなった。これらの結果は、ステロイド性骨粗鬆症の病態とモデル動物作製について有用な情報を提供するもので、本論文の内容は、ステロイド性骨粗鬆症の病態解明ならびに治療に大きく寄与するものであり、明らかに学術の水準を高めたものと認められる。